

「思い」は見えないけれど、「思いやり」は誰にでも見える。

校長 北島 一朗

私自身、城端中学校のために、子供たちのために、何かしたいという「思い」はいつも持っています。でも、なかなか実行できない自分がいます。本校で3年目を迎え、強く感じるのは、母校への熱い「思い」を「思いやり」にさせていただいた方がおられます。ここ、最近だけですが紹介します。



①本・新聞（新聞かけ）の寄贈

「富山新聞2年分」「新聞かけ」「昭和ひとけた世渡り伝
88歳、起業こそわが人生」10冊

(株)アドバソ北陸サービス 会長 杉本清壽様(第3回卒業生)

②本の寄贈 谷聴泉作品集 北方心泉碑文集 北方心泉自用印譜 常福寺(金沢)図録 上田久雄(北山)様(第15回卒業生)



③絵画の寄贈 「海」

細川歯科 細川史郎様(第29回卒業生)



④本の寄贈「城端蒔絵 十六代 小原治五右衛門」 3冊 小原治五右衛門様(第47回卒業生)



⑤お花の寄贈 シクラメン(毎年) 千華園 石村修子様(第47回卒業生)



このように「思い」を「思いやり」にさせていただいた方がたくさんおられるということです。本当にありがたいことです。

3月15日(水)には、3年生82名(3クラス)が、城南の丘を巣立ちます。おそらく、城端中学校76年の歴史の中で最後の3クラスになるでしょう。今年度もあと1か月、たくさんの方に支えていただいていることに感謝しながら、残りの日々、目の前の子供たち一人一人のために「思い」を「思いやり」にできるように、本校の校訓「誠心誠意」に恥じないようにつとめてまいります。